

長野県立美術館

東山魁夷館 コレクション展 I 期

長野県立美術館（東山魁夷館）では、2022年度の「東山魁夷館コレクション展 I 期」を下記のとおり開催します。ぜひ、取材をお願いします。取材を希望される場合は、当館広報担当まで事前にご連絡ください。

1 期間

令和4(2022)年4月14日(木)～6月7日(火)
*休館日＝水曜日(5/4は開館、翌々日5/6休館)

2 場所

長野県立美術館(東山魁夷館)
(長野市箱清水1-4-4 善光寺東隣)

3 開館時間

9:00～17:00(最終入館は16:30)

4 観覧料(本館 NAM コレクション展共通)

一般700円、大学生及び75歳以上500円、高校生以下又は18歳未満無料

《緑響く》1982年



5 内容

「白い馬の見える風景」の代表作《緑響く》と《水辺の朝》、春の訪れを青と緑で美しく表現した《春兆》や《沼》、ドイツ・オーストリア旅行で心惹かれた《石の窓》などを中心にご紹介します。

—関連イベント—

ギャラリートーク(担当学芸員による展示解説)

- (1) 日時：5月21日(土) 14:00～
- (2) 場所：東山魁夷館 展示室
- (3) 参加費：無料(ただし、観覧料は必要)
- (4) その他：申込み不要

※新型コロナウイルスの感染状況によりイベントを中止する場合があります。

※裏面に東山魁夷館年間展示スケジュールあり

長野県立美術館(旧信濃美術館)
(副館長)井上英
(学芸課 展覧会担当)上沢修
(広報担当)柄澤志保
(電話)026-232-0052(FAX)026-232-0050
(H P)<https://nagano.art.museum/>
(MAIL)nam-pr@naganobunka.or.jp

「東山魁夷館 コレクション展」

平成2(1990)年に開館した東山魁夷館は、画家本人から寄贈された作品に加え、後に収集、寄贈された作品を含めると所蔵点数は970点あまり。令和4年度は、《緑響く》や《白馬の森》、《行く秋》など本制作品30点余りを6期に分け、日本の古都を描いた「京洛四季」や「大和春秋」の連作、北欧やドイツ・オーストリアの自然や街並みを描いた風景シリーズ、「白い馬の見える風景」や唐招提寺御影堂障壁画の準備作など、自然を深く見詰め、静謐な世界を表現した東山芸術の全容をご紹介します。

■Ⅰ期 令和4(2022)年4月14日(木)―6月7日(火)

「白い馬の見える風景」の代表作《緑響く》と《水辺の朝》、春の訪れを青と緑で美しく表現した《春兆》や《沼》、ドイツ・オーストリア旅行で心惹かれた《石の窓》などを中心に紹介します。

■Ⅱ期 令和4(2022)年6月9日(木)―8月2日(火)

魁夷畢生の大作「唐招提寺御影堂障壁画」の制作過程で生まれた《夕静寂》をはじめ水墨表現に挑むなかで制作された《灘江暮色》や《桂林月夜》、《黄山雨過》など、モノクロームの世界を描いた作品をメインにご覧いただきます。

■Ⅲ期 令和4(2022)年8月4日(木)―10月4日(火)

人気シリーズ「白い馬の見える風景」の《白馬の森》とその習作群をはじめ、飯山市の希望湖を描いた《静映》や《沼の静寂》、《緑の窓》など、緑萌える夏の爽やかな風景を描いた作品をご紹介します。

■Ⅳ期 令和4(2022)年10月6日(木)―12月6日(火)

初秋の志賀高原を描いた《山谿秋色》や落葉する楓を黄金色で鮮やかに描いた《行く秋》、秋色に染まる自然を象徴的に描いた《紅翳》、《秋思》などの秀作を展覧します。

■Ⅴ期 令和4(2022)年12月8日(木)―令和5(2023)年2月7日(火)

「東山の青」を代表する《静唱》や絶作《夕星》をはじめ、紅葉する樹々を幻想的に表現した《夕紅》や《木枯らし舞う》など、東山晩年の心象風景を描いた力作を展示します。

■Ⅵ期 令和5(2023)年2月9日(木)―4月11日(火)

冬の信州の自然をあたたかな眼差しで描いた《静晨》や《霧氷の譜》、《冬の旅》を中心に、東山が深く心を寄せた北欧の古い街並みを描いた《窓》や《倉庫》などを展示します。

長野県立美術館(旧信濃美術館)
(副館長)井上英
(学芸課 展覧会担当)上沢修
(広報担当)柄澤志保
(電話)026-232-0052(FAX)026-232-0050
(H P)<https://nagano.art.museum/>
(MAIL)nam-pr@naganobunka.or.jp